

三教授を送る

鈴木規夫

(愛知大学国際コミュニケーション学会々長)

2011年3月31日を以て愛知大学国際コミュニケーション学部を定年退職されるのに伴い、本学会正会員である垣内伸彦教授、新形信和教授、浜本正文教授のお三方が退会されることとなりました。講義演習などの義務から解放されて、ご退会後もますますご自身のご研究に専念なされますことを、未ださまざまな錘に絡めとられて鬱々とした日々を苛まれております後輩の私どもは一種の渇きにも似た羨望とともに、願ってやみません。

三教授の長年にわたる愛知大学国際コミュニケーション学会へのご貢献に感謝致しますとともに、ここにお三方それぞれについて、私の存じ上げております二、三のことがらを添えて言祝ぎたく存じます。

まず、フランス文学をご専門とされる浜本教授の人となりは、今回も本号へのご業績ご履歴お写真掲載などをご辞退なされたことにも顕われております。もっとも、それはただ、「……一つの地球があって、そこでは一人の人間が、他の地球で他のそっくり人間によって見捨てられた道を歩いている。彼の人生は天体ごと二分される。そして、二度目、三度目の分岐を行い、何千回も分岐する。彼はそのようにして、完全に瓜二つの自分と無数の瓜二つの変種(ヴァリエント)を手に入れる。この変種の方は、彼の人格を絶えず増殖させ、再現するけれども、彼の運命の切れっ端しか獲得できない。この地上で我々がなりえたであろうすべてのことは、どこか他の場所で我々がそうになっていることである。無数の地球上に存在する、誕生から死までの我々の一生のほかにも、他の何万という異なる版の我々の一生があるのである。……」(L.A.ブランキー-傍点引用者)とお感じになってらっしゃるからなのかもしれません。

あるいは、このところあまりに品のない変貌変質に浸食されている愛知大学を危惧されて、「……*Quand j'étais prisonnier/ On m'a volé ma femme/ On m'a volé mon âme/ Et tout mon cher passé* ……」(Boris Vian)と「脱走」をお考えなのかもしれません。もっとも、それもまた一つの「見捨てられた道」なので

ありましょか。

愛知大学の行く末を危惧されているのは、比較思想をご専門とされる新形教授も同様であります。

ブランキがパール・ラシェーズ墓地に埋葬された2年後に日本で生まれた志賀直哉は、「……人間といふものが出来て何十万年になるか知らないが、その間に数へきれない人間が生れ、生き、死んで行った。私もその一人として生れ、今、生きてゐるのだが、例へて云へば、悠悠流れる大河の水の一滴のやうな存在で、しかも、一滴の水である私は後にも前にもこの私だけで、何万年溯っても私はゐらず、何万年経っても再び私は生れては来ないのだ。過去未来を通じ、永劫に私といふ者は現在の私一人なのである。……」と言いきっておりますが、志賀直哉を介して「近代的〈わたし〉はいかに解体し、また再生したか」を語る新形教授の低く響く声が、深く嘆く、知を愛する共同体であることを止めてしまうかもしれない「ひき裂かれた〈愛知大学〉」の姿は、ご著作の他にもさまざまな議事録などに確かに刻まれております。

そして、「Microbundlesのオイラー類と応用」などトポロジーをご専門とする垣内教授は、まさに愛知大学の知の実践において、トポロジーの存在理由に他ならない〈連続性と革新〉を日々追求されてきました。言うまでもなく、トポロジーとはギリシャ語のトポス (τόπος) とロゴス (λόγος) の合成に由来し、いわば「位置の研究・学問」ですけれども、垣内教授が「豊橋」というトポスと「笹島」というトポスとの連続性に見出した国際コミュニケーション学会の存続可能性は、「オイラー類を真に超えるような特性類は現れるのか？」を根源的に問う一つの思考実験の実践形態であったのかもしれませんが。それゆえにこそ、数学者としての垣内教授は、愛知大学において2007年12月から2008年1月までのあいだに実施された金利・通貨スワップ取引の事実関係と責任をめぐって、2007年11月に成立した大学執行部において大学評議会の承認を経ずして経営担当副学長が何を実施したのかという問題と、その経営担当副学長により2008年11月に成立した大学執行部の重大な責任の〈連続性〉を、厳しく鋭く問う姿勢を揺るぎないものとしているのであるに違いないでしょう。

今回お送りする三教授が、それぞれの研究への真摯な姿勢において、みなさんともに学問の本来的に有すべき社会的責任のありかを照らし続けておられることに学びつつ、現在ある種の停滞の憂き目をみている本学会の活動の再生へ鋭意尽力していくことを硬く約して、私どもの送る言葉とさせて頂きたく存じます。